

学級委員やキャプテンは政治家？

政治という言葉聞いたことがあるかな。
なにかむずかしい言葉のように思うかもしれないけれど、
それほどむずかしくはない。
政治に関して、君はなにを思うかべるだろう。



政治家とよばれる人たち

ニュースでは、かならず政治家がでてくる。たとえば、総理大臣、閣僚や府知事がどうしたこうした、あるいは厚生大臣や行政改革担当大臣、市長が記者会見したというニュース報道が流れる。

大臣や知事や市長は政治家とよばれ、住民の選挙で当選¹した人たちだ。ほかにも衆議院議員とか国会議員とか市区町村議会の議員²も政治家といわれ、やはり住民の選挙で当選した人たちである。



¹ 当選：選挙でえらびだされること。

² 議員：国会や地方議会などを議決の機関を構成し、議決にくわめる議員をもつ人。

学級委員は政治家？

クラスやクラブ活動のことを考えると、なにが思い浮かぶか。クラスの学級委員はクラス全員による選挙でえらぶだろう。いちばん得票の多い人がえらばれることを当選¹といひ、その人が学級委員になる。市区町村や県や国の議員と同じように、学級委員は選挙でえらばれるから政治家にしている。



² 投票：選挙や投票で、それぞれの意思表明のために投票が得るなどを機に選んで当選すること。

家族のなかの政治 ①

- 君には兄さんがいるでしょう。
- ふたりで遊ぼうとしたとき、君はサッカーのドリブル練習をしたいが、
- 兄さんはキャッチボールをしたい。ふたりいないと遊べないが
- 遊びたいことはちがう。そんなとき、どうする？
- ふたりで相談したら、兄さんは「ぼくは野球が好きだから、
- まずはキャッチボールをやろう。おまえは弟だから、
- ぼくのいうことにしたがえ」といっていた。



兄さんはキャッチボールをしたいけど、ぼくはドリブルがしたい。

んをやろう。明日はおまえのやりたいドリブルにつきあうから。」という、兄さんと君それぞれに意思がある。

君は「いつも、父はぼくにつきあうっていうけど、キャッチボールのほうがだんぜん多いじゃないか」と考え、「お兄ちゃんはいつもそういうけど、ドリブルよりもキャッチボールのほうが多いから、きょうはきょうはきょう」と考えた。

しばらく経っていたら兄さんがいった。「わかったよ。それならきょうは、おまえの好きなドリブルをしょう」としてふたりはドリブル練習をはじめた。

なぜ兄さんにしたかわなきやいけな

君は『なんで僕だから兄さんにしたかわなくちゃいけないの?』と考えて「お兄ちゃんずるいよ、ぼくはサッカーやりたい。どうしていつもお兄ちゃんがやりたいことを先にするの?」といった。すると兄さんは「どちらが先でもいいけど、きょうはぼくのやりたいキャッチボ



たがいの考えがちがうことがあったりした。

政治のはじまり



兄弟ふたりのやり取りだけど、このとき政治がはじまった。政治は人との問題を解決する方法だ。政治とは、ちがう考えがあるとき、ちがいを調停することから始まる。ちがいをたがいに意見としてつたえ、ゆずりあえるかどうかを考えると、ふたりの問題は解決する。ゆずりあわなくても、相手に納得^①して自分の意見や行動をあためてもらえば問題は解決できる。

最初、兄さんはキャッチボールをするという考え、君はサッカーのドリブル練習をするという考えで、たがいにちがう考えがあった。ふたりで遊ぶという考えは同じだが、なにをして遊びたいかはちがっていた。



ふたりでそれぞれの意見をつたえあう。

相手に考えをつたえ納得する



兄さんに納得されても、ぼくは断れない。

兄さんはキャッチボールをしたい理由として、野球が好きと君につたえ、君はサッカーが好きと兄さんにつたえて、たがいの考えのちがいがはっきりした。つたえあったから、たがいの考えがちがうとわかった。

兄さんは君のことを考え「明日はドリブルにつきあうから、きょうはキャッチボールをやろう。」といって君を納得しようとした。

次は自分につきあうという兄さんの言葉を、君は考えてみた。これまでもドリブルにつきあってくれることは少なかった。でも「いつもキャッチボールをやることのほうが多いから、きょうはゆずらないよ」と自分の意見を強くいへ、顔を組んで兄さんを見つめた。自分の意見を強く主張^②して、兄さんの納得を受けないで行動でしめたわけだ。

① 納得：よく話して納得させること。

② 主張：自分の意見を強くいへること。また、その意見。

友だちどうしの政治 ①

- 仲のよいひかる君とまるお君とあんなさんは、
- 学童にむかっていた。まるお君が「きょうなにしようか」
- という「外遊びしよう」とあんなさん。
- 学童には、ほかのクラスの子たちもやってくる。
- ひかる君は、みんなをさそって外で遊びようと考え、
- 学童につくと「みんなでだるまさんが転んだをしよう」と
- 大きな声でいった。

「だるまさんが転んだ」と「かくれんぼ」

3人のほかに、よそのクラスのしおりさんとはいすけ君。1学年下の子たち3人、2学年下の子みたりがやってきて、合計10人がいっしょに遊ぶことになった。ひかる君が「だるまさんが転んだをしよう」というと、しおりさんとあんなさんが「かくれんぼがよい」といいました。



ひかる君が「じゃ、だるまさんが転んだをやりたい人はぼくのほう、かくれんぼしたい人はしおりさんのほうに集まって」というと、ちょうど5人ずつにわかれた。

ひかる君が「どうする？ 5人ずつだけど、だるまさんもかくれんぼも5人じゃおもしろくないから、10人でだるまさんが転んだをしようよ」というと、しおりさんが「なんで、だるまさんにするの。わたしもあんなさんちも、かくれんぼがしたいよ」といった。

ちがう意見があり、その意見をみんなにつたえることは政治の始まりだ。

みんな政治をおこなっている

ひかる君はこままって「5人ずつだからぼくとしおりさんが代表で、じゃんけんで決めよう」というと、あんなさんが「どうしてふたりでじゃんけんして決めるの？ もっとみんなの話を聞いてよ、話し合ってよ」といっていた。

意見がわかれて政治が始まる

ひかる君は、みんなの意見を聞くことにした。ひかる君のところに集まった1学年下の3人は、かくれんぼは低学年の遊びでつまらないという、2学年下の子たちは「だるまさんが転んだは大きい子が早口で転ぶから、低学年のぼくらはすぐ転ぶのがつまらないやなんだ」とまるお君に賛同をうったえた。



② さらなる：平均の意見などについて話し合えること。



政治はだれのためにあるのか

- 政治は、だれのためにあるのだろう。
- 大学自治会や町の自治会を思いだしてくれるかな。
- 自治は「自分たちにかんすること、自分たちの責任で決めて行動できること」で、政治と同じだった。
- いまの日本で、政治はだれのためにあるかと問うと、
- 政治は自分や自分たちのためにある、という答えになる。



家族や友だちどうしのなかの政治も自分のため

サッカーが好きな「ぼく」が強く主張し、兄さんや姉さんにつけたことは、政治のひとつだった。妹にお菓子をおげてバドミントンをするようにもめたことも、家族で食事をするとき、居残り勉強にするよう説教したことも、政治だった。

国にでてくる「世」も「国」も、自分のために政治をおこなった (P.10～19 参照)。



ひかる君は年下の子を連れて帰る、ななさんは昇校を断える、という政治をして、それぞれ自分のしたいことができるようになった。たずく君はクラスの人を調停して学級委員になり、児童会長の選挙に立候補したりきさんたち、料理クラブのふうかさんたちも、自分のための政治をした。自分のための政治は、友だちやクラスや学校のための政治にもなる (P.22～43 参照)。

生徒会の政治は自分たちひとりひとりのためにある

中学や高校のなかでも、生徒会があり政治がおこなわれている。生徒から選ばれた生徒会執行部は、体育祭や文化祭など、生徒が学校でなにをするかを自分たちで決める。学校の政治は、生徒たちのことを決めるため、生徒ひとりひとりのためにある。学校のなかの政治も自分のための政治である。



政治で大切なこと

- 第1章の兄さんとのやり取りや妹とのやり取り、父さんと姉さんとのやり取りでは、全部「自分のために」政治があった。
- 第2章の友だちどうしの政治、クラスのなかの政治、クラブのなかの政治、中学や高校のなかの政治、どれをとっても、政治は行動する自分のためにある。でも自分が行動しなければ、自分のための政治にはならない。
- 政治でいちばん大切なのは「政治は自分のためにある」ということだ。

政治は自分のために行動する自治活動

行動する人には「自分のための政治」がある。

クラブのなかの政治でも、中学や高校のなかの政治でも、政治は自分のためにある。自分だけをするか、なにかを起こそうとすると、自分のための政治になる。自分が行動を起こさなければ、政治は自分のために、なにもしない。

自治とは自分たちにかんすること、自分の責任で行動し、けりをつけること。自治活動は自分で責任をもって結果を出す活動のこと。自分が行動を起こすから自分のための政治になる。

自治活動の原点は、自分の主体性をもつこと。

主体性とは、自ら考え行動を起こすことで、それが自分のための政治になる。

自分が行動を起こすとは

児童会・学生会の選挙がはじまったとき、うきさん、かいと君、目のかさん、こうすけ君の4人はなにをしたかな。

こうすけ君はお昼の時間に各学年の教室をまわり演説し、放課後は人を集めて演説した。

うきさんは4年のときからクラスの人たちみんなと、わけへだてなく気軽にやさしく話してきたし、みんなから話を聞き問題を解決してきた。



かいと君は、仲間を集めてもらい「先生やPTAと話し学校のスポーツ施設をふやす」と演説しながら歩きまわった。

目のかさんはうきさんのサポートをしようと思いつき、選挙運動が苦手だから演説会の開催作戦も考えた。4人は自分から行動を起こした。選挙の結果はそれぞれが違ったが、行動を起こすことは自分のために政治をおこなうことだ。

政治でいちばん大切なことは、政治は自ら行動を起こす人のためにある、ということだ。選挙で自分が立候補して演説する活動は自分のための政治だ。立候補しなれば、演説もしないし、多くの人にも知れない。それでは、なにも起きない。

自分が行動を起こすと、政治は動くために動きます。そして君の側面を解決する。

たとえば自治会に参加すると、それが行動の第一歩になる。自治会活動は政治だから、参議したとき、君が行動を起こしたときから、君のための政治が動きはじめる。

投票も立候補も自分の行動の第一歩

地方自治体も同じだ。地方自治体は市民の自治活動だから、君の住んでいる市区町村の政治を、君のための政治にするには、君が行動を起こさなければ、自分のやりたいことと同じ考えの議員や首長がいたら、その人を選挙でえらび、それが行動の第一歩だ。子どもには選挙権^①がないけれど、18歳になれば選挙ができる。自分の考えをにている議員や首長を選べ、その人に投票をすれば、君の住む地方自治体の政治は君の政治になる。

選挙運動は18歳から、選挙は18歳からできる。25歳になれば市区町村議員と地方議会議員の候補者^②をもつ。30歳になれば知事の候補者をもつ立候補^③もできる。立候補して立候補すれば自分のやりたい地方自治の政治ができる。行動すれば自分のための政治になる。



① 選挙権：選挙など公選につく票を投ずる権利。市民権の権利のひとつ。選挙権年齢は18歳以上。

② 立候補：選挙に立候補して当選人となる権利。日本では、市区町村議員・地方議会議員・市区町村長は25歳以上、市長・知事・都道府県知事は30歳以上の者。